



設定

18 禁小説です。

盗撮カメラ付きのホテルで彼女と行為に及んでいた主人公が、催涙ガスで眠らされている間に別部屋に移され、監禁。○漬けにされながら男とのセックスを強要されていくお話です。

※女性との性行為シーン少し含みますが描写程度であくまで男性メインです。

拘束、監禁、薬、口内ディルド責め、スパンキング、言葉責め、飲尿、犬扱い、晒し、NTR、鼻フック、アヘウホ鳴き、トコロテン等

登場人物

杉田 拓斗(すぎた たくと) 25 歳

営業マン。空手有段者。男らしく、真面目で一途。

近藤 美香(こんどう みか) 25 歳

拓斗の彼女。大学生のころから付き合っている。

富岡 茂(とみおか しげる) 45 歳

ホテル経営者。気に入った獲物がいると、催涙ガスを使い眠らせ、監禁。言いなりにまるで調教している。

未来

二人とも 25 歳。そろそろ結婚も意識してくる頃。

大学時代、美香にストーカーのように執着していた同級生について、相談を受けているうちに好意が生まれ二人は交際にいたった。

すでに付き合いも長くなり、恋人というより 家族のような安心感が二人を包んでいた。週末にどこへ行くか、夕飯を何にするかそんな他愛のない会話が、自然と未来を想像させる。

その日も特別な予定はなかった。ただ、久しぶりに街をブラブラしたあとにホテルに入ってゆっくりしようとしていた。チェックインを済ませ、部屋に入ると、二人は笑い合った。

「こういう場所来るの、久しぶりだね」

「たまにはいいよな」

二人は見つめ合い愛し合っていた……。

そんな二人の様子をモニター越しに見ながらにやけている男。

「これは上玉だ。体も顔も、股間も悪くない。やらないわけにはいかないな」

「こいつらは……是非おとしましょう……」

富岡は同じ部屋にいる従業員に話しかけながらにやける。従業員も二人を気

に入ったのか、いつも以上に欲情にまみれた顔で笑っていた……。

ごく普通の、幸せな二人の時間。だが、その普通は壊れ始めていった……。

処女

拓斗が目を覚ますと知らない部屋で一人、下着のボクサーパンツ一枚の姿でベッドの上で大の字で拘束されていた。

「ここは……なんでこんなところで……そうだ美香は……！？」

「お目覚めのようだな。杉田拓斗君」

富岡と名乗る男は拓斗の身分証明書を見ながら話しかけてくる。

「いったいどういうことですか……？なんで俺拘束されているんですか……？美香は？俺と一緒にいた女性はどこにいるんですか！」

「大丈夫だ、すぐに全て理解できるし、彼女のことはこちらで大切にもてなしているから、安心しろ……」

富岡は拓斗の両足をゆっくりとさすり始める。その手つきはとても繊細で、触りなれていて、男の手だというのにゾクゾクと感じてしまう。

「な……何してるんですか……俺にさ……触るな！」

一気に怒りがこみあげてきて叫んで威嚇する拓斗。しかし富岡は一切動じず、そのまま愛撫を続けている。

富岡はその手を上半身への方へと移し、その隆起した胸の突起へとたどりつくと優しく転がし始める。

「全然普段いじられてない……いかにもノンケの乳首って感じだな……これから育てていかないとな……」

「や……やめろ……変態野郎……」

拓斗は乳首では一切感じないが、それでも男に弄ばれることに羞恥心でいっぱいになっていく。男は拓斗の訴えなど無視して、自分の思うがままに拓斗の体を楽しんでいた。

手でその転がしていた乳首をつねったり、ひっかいたり刺激を与え、それが終わると舌でゆっくりと舐め、吸い、噛みついていく。

ぺろぺろぺろお……ちゅぱちゅぱちゅぱあ♡

「ぐうう……やめろ……なんでこんなことするんだ……」

富岡は拓斗の乳首を満喫すると拓斗のパンツを降ろし、その陰茎をさらす。

「さっきまでギンギンにして彼女の中に入れていたのに今は元気がないねえ。また元気になってもらわないと」

富岡はそう言うと、ずしっとした重量感のある拓斗のその一物を握り、口にくわえてしゃぶりだす。

「おい……おい……やめろ……おれは……ゲイじゃない……くう……」